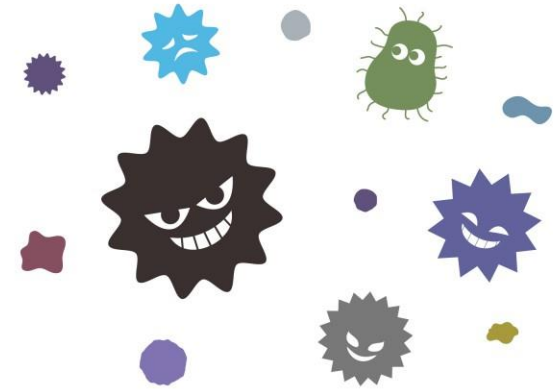


A 1.



原因

インフルエンザ：インフルエンザウイルス。

普通のかぜ：インフルエンザウイルス以外のいろいろなウイルス。

(例) RSウイルス、コロナウイルス、アデノウイルスなど

症状

インフルエンザ：風邪症状を伴うこともあるが、いきなり 38.0°C 以上の発熱が起こる。

熱に伴って、頭痛や関節痛（手足）の症状が現れる。

しかし・・・ インフルエンザのワクチンを打っている人は、典型的な高熱が出ると
いうことはあまりない。そのため、症状だけではインフルエンザなの
か風邪なのか区別するのは難しい。

普通のかぜ：咽頭痛、鼻汁、くしゃみ、咳に伴って 37.0°C 代の発熱が起こる。

A2.



- ・インフルエンザのワクチンを打つ。

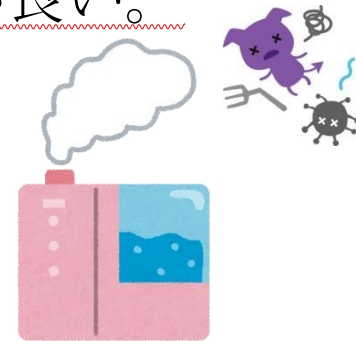
流行するといわれている時期の2週間~1か月前に打っておけば、4~5か月の効果がある。

注意 ワクチンを打ったからといって、絶対にインフルエンザにかからないというわけではない。たとえばかかったとしても症状が軽く済む。



極力、ワクチンを打っておいた方が良い。

- ・マスク 
- ・外出後のうがい 
- ・乾燥対策（乾燥はよくないので湿度を十分にとる。）
- ・人混みを避ける（特に、インフルエンザの流行時期）



A 3.

インフルエンザの場合は、熱が下がってもしばらくは人に移す危険性がある。
 そのため、熱も下がって全く症状がなく元気でも他の人に移す危険性があるので、
 すぐに外出してもいいわけではない。

〈目安〉 ※学校保健安全法施行規則第 18、19 条

発症してから 5 日間、かつ解熱後 2 日間は外出してはいけない。

例	発症日	発症後 5 日間 (出席停止期間)					発症後 5 日を経過		
	0 日目	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目	6 日目	7 日目	8 日目
発症後 1 日目に 解熱した 場合									
発症後 2 日目に 解熱した 場合									
発症後 3 日目に 解熱した 場合									
発症後 4 日目に 解熱した 場合									
発症後 5 日目に 解熱した 場合									

A4.



タミフル：飲み薬。服用期間5日間。
リレンザ：吸入薬。服用期間5日間。
イナビル：吸入薬。1回の使用。

細胞の中で増殖したウイルスが他の細胞に拡散しないように作用する。

ラピアクタ：点滴。よっぽどのことがない限り打つことがない。



ゾフルーザ：飲み薬。1年前に発売。1回の使用。細胞の中で増殖したウイルスそのものに作用する。他の薬の中では、一番効果がある。

ゾフルーザを使った場合は、人に移す期間が短くなる。



去年発売されたばかりなので、データがない。

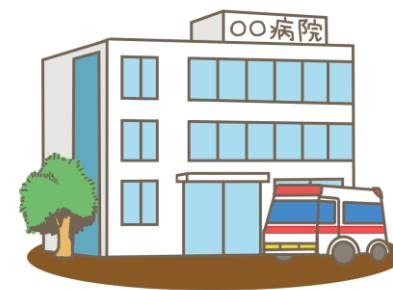
⇒昔から使われているタミフルを使う方が安心ではある。



病院に行けば、一人一人あった薬を処方してもらうことができる。

A5.

すぐに病院に行った方が良いでしょう。



〈ダメ〉 解熱剤を使う。

インフルエンザの時に解熱剤（バファリンやボルタレンやボンタールなど）を使うと、インフルエンザ脳炎を起こしたり、ライ症候群（神経や肝臓の病気）を誘発する可能性がある」と医学的根拠がある。

注意 インフルエンザの検査は、発熱して半日以内だとインフルエンザであっても反応が出ないということがたまにある。そのため、病院によっては今インフルエンザの検査をしても反応が出ない可能性があるのもう一度検査しに来てと言うことがある。

しかし・・・

発熱して半日以内であっても反応が出るケースが多い。

発熱したら勝手に薬を飲むのではなく、すぐに病院に行こう！

質疑応答

- ・ 新型インフルエンザが流行しだした頃は、若い人でも死亡例があった。
- ・ 若くて健康な人が従来のインフルエンザで死ぬことはまれだが0ではない。
- ・ インフルエンザの薬を飲むと、副作用で異常な行動をとることがある。
窓から飛び降りて転落死したケースがある。

⇒薬によるものかインフルエンザ脳症によるものかは、はっきりとしたことが分かっていない。しかし、薬の可能性も否定できないため、病院でインフルエンザの薬を処方してもらった時は、必ず薬を服用して2日間は部屋で一人にならない。

